

令和2年度の学校評価結果及び学校関係者評価結果

重点目標		<p>(1)「課題探究」を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。</p> <p>(2)新教育課程の検討を進めるとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。</p> <p>(3)教育活動全体を通じて、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する。</p> <p>(4)強く靱やかな学力を育てるとともに、多様な学びを記録する方法を確立する。</p> <p>(5)教育活動の見直しや業務の精選を図り、教職員の多忙化の解消に努める。</p>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	業務に関する内容の精選や手順の効率化を進める。また、令和4年度の新教育課程の開始に向け、本校教育課程の編成や評価方法の改善のための、検討と周知を円滑に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各担当の業務内容について、一層の見直しを進め、教育効果と効率性の両面より、教務関係事項の望ましい体系やあり方を検討し実施する。 カリキュラム委員会等での審議、教科主任会等での情報共有、また職員全体への周知を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の時差通学等の対応について、各科目の授業時数への影響に配慮し、変則的な時間割の作成などを行い、円滑な授業実施に尽力できた。一方、通常業務の改善に時間を割くことが難しい状況もあり、今後も業務全般については効率化を目指していく。 新教育課程に向け、教育目標に基づき、カリキュラム委員会や各教科の考え方を周知し連絡・調整を行い、新カリキュラムの最終案に理解を得ることができた。
総務	奨学金に関し、本年も給付対象、手続き方法等が変わるものはいくつかある。それを確実に生徒に伝え、指導を適切に行う。	<p>主催する団体の求める提出書類、提出期限とそのために出願生徒、学校がすべきことを理解させ遺漏のないようにする。また、教育活動の中で得る生徒一人ひとりの情報を共有し、奨学金に関する助言・指導に役立てるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍による臨時休業の影響により、奨学金手続き指導等が例年と異なるものとなったが、大きな混乱もなく、申し込み、採否の結果を受けた事後指導まで終えつつある。今年度の変更点等で来年度以降に生かせるものがあれば取り入れていきたい。
生徒指導	「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動(挨拶、身だしなみ、言葉遣い)や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。 情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 生活指導強調週間で生徒の参加を募り、生徒主体の活動になるように企画し、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校再開が5月後半だったこともあり、12月までの遅刻総数は昨年度より減少している。しかし、10月以降の遅刻数が増加している。不登校気味の生徒が遅刻するケースがここ数年、増加している。 情報モラルに関しては、SNSでのいじめや誹謗中傷がないよう、学年と情報共有していきたい。 生活指導強調週間での生徒参加は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本年度は2回とも中止した。
進路	高大接続改革にあたり、職員間で共通認識を持ち、学校全体で組織的で継続性のある進路指導を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 低学年での客観的な生徒の理解度を測定するために、実力考査のデータの有効活用を図るとともに、「高校生のための学びの基礎診断」のあり方について積極的に提案する。 キャリア教育の充実に向けて、講演会や大学ガイダンス等を改善し、1, 2年生における進路意識の高揚を図る。 各学年進路情報交換会の目的を明確化するとともに内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 ポータルサイトを活用し調査書の記載内容の充実を図ることで、調査書様式変更への対応策を具体化していく。また、間違いのない調査書発行のために記載事項の確認を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育として、2年生を対象として、駐キューバ大使の講演をオンラインで行った。 「高校生のための学びの基礎診断」についてカリキュラム委員会において提案を行う予定である。さらに3年生でも継続的な基礎学力の測定ができるように提案したい。 コロナ禍にあっても、実施方法や実施時期を変更しながら「東大ガイダンス」、「大学ガイダンス」、「医学部ガイダンス」、「文系学部ガイダンス」等を実施できた。ガイダンスを学年全体で受講できる形態を模索したい。 各学年で情報交換会を実施できた。情報交換会の目的を明確にして、より効果的な情報交換会となるように改善を図りたい。 調査書作成と点検の改善を図った。調査書作成のための情報蓄積の効率化を検討したい。

保健 相談	快適な学校環境を実現するとともに、生徒の心身の健康増進をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃や点検活動を通し、自ら環境美化について考える姿勢を育成する。 ・学年との情報交換を密にすることにより、早期に連携して生徒対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度が始まる前から新型コロナ対応に追われた。次年度も終息の見込みが立っていないため、引き続き対応を強いられる。体制としては整ってきているが、生徒の感染防止意識は個人差があり、概して依然低い。委員会活動を通し、生徒発信で意識の高揚を図りたい。
生徒 会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事のもつ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 ・効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。 ・東北被災地関連の企画を継続して行う。 ・初の体育館実施となる体育祭を成功させる ・文化祭の熱中症対策を講ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> （コロナ禍で、すべての行事の日程、内容を変更して実施した。） ・すべての行事を一から見直し、立案し、準備、実施することとなった。大変な労力を強いられたが、コロナ対策を講じた上で生徒はよく考え、工夫し、主体的に行動し、ルールを守り、行事を実施した。大きな問題なく運営することができ、素晴らしい結果であったと考える。 ・残念ながら種別委員会の負担は例年以上のものであった。 ・東北関連企画は実施できた。 ・冷房の効いた体育館は閉鎖空間であるため、本校グラウンドで時期を変更して実施した。 ・文化祭実施時期を9月末～10月1日にしたため、結果として熱中症対策は万全であった。
図書 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び教員の図書館使用を活性化する。 ・校内ネットワーク環境の整備をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、「図書館報」「ほいさっさ」などの内容を充実させる。 ・アクセスポイント、プリンタを設置し各執務室で円滑に校務が行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動が制限される中で、「館報」等の内容をどのように充実させていくか、模索の年になった。次年度以降も継続が求められる。 ・GIGAスクール構想に係わる校内ネットワーク工事と本校独自の整備により校内ネットワーク環境は大きく改善された。
研究 開発	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究と各学校設定科目やSSH事業のつながりをより一層強化する。 ・SSH第Ⅱ期のまとめの段階として、研究開発の仮説の検証をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究と各学校設定科目や各SSH事業のつながりを強化するために、授業の内容やSSH事業の内容の改善を図る。 ・各SSH事業の実施後に行うアンケート調査をもとに、第Ⅱ期の研究開発課題である『質の高い探究心』が涵養できたかどうかについて検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究で培ってきたノウハウが課題探究基礎の実施で活かされた。また、探究活動ガイダンスのSSH生物αでの事前事後学習の充実をさせることができた。 ・アンケート調査の方法をGoogleFormを利用した方法に変えたことで、アンケート処理にかかる業務の負担減ができた。一方で、回収率の低下や紙での提出に比べて記述文の質の低下があり、『質の高い探究心』の涵養について例年と比較しづらい部分があった。
音楽	品格のある音楽科生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉遣い、美しい立ち居振る舞いができるよう指導する。 ・礼儀や常識をわきまえ、他者を思いやる心を育てる。 ・忍耐力やくじけない心を育てる。 ・専攻実技と一般教科の学習の両立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、自ら気づいて実行することの積み重ねを大事にさせたい。 ・専攻と一般教科の学習のバランスがとれない生徒が多い。 ・各学年に心の悩みを抱えている生徒もいるので注意していきたい。（特にコロナ禍での悩みで心身を病む生徒も増えているので、引き続き見守っていきたい。）
1年	基本的な生活習慣を整えるとともに基礎的な学力を身につけ、卒業後の進路を見据えて自己を律することができる生徒に育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、授業を重視して学習活動に取り組む、清掃をしっかり行うという高校生としての基本となる姿勢を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制約が多い中でも、生徒は概ね学校生活に適応し、基本的な生活習慣を確立している。今後も適切な支援を行いながら、進路についての意識をもたせ、計画性を身につけさせるための指導を行っていく必要がある。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・中核学年として、何事にも挑戦して主体的に取り組む中で、気づきの心を持 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、授業を大切にしたい学習姿勢、部活動や行事、清掃などに積極的に取り組むといった姿勢を身に付けさせる。 ・自主自立を大切にしながら、 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校行事等様々な変更が余儀なくされたが、その状況下で主体的に取り組むことができた。心配された修学旅行も無事計画通り行うことができた。 ・不安を抱える生徒についての情報を学

	つ生徒を育てる。 ・進路実現に向けて、高い目標を掲げ、さまざまなことに挑戦しながら主体的に解決できる生徒を育てる。	集団生活において大切な他者への思いやり、気づきの心を持たせる。 ・類型登録に向けて、生徒が自己の進路について高い意識を持つように指導する。挑戦させ、試行錯誤を経ながら粘り強く最後までやり遂げさせる。	年会、保健相談部などと多方面と共有し、支援を行えた。対応が必要な生徒が年々増加している。 ・今後の進路について高い意識を持ち、真剣に考える生徒が増加している。今後も継続的に指導していく。
3年	・最高学年としての自覚と誇りを持たせ、何事にも失敗を恐れず、ねばり強く謙虚に挑戦し続ける精神を涵養するとともに、学校生活全ての場面で他の学年の範となり、さらにはリーダーシップに優れ、社会に貢献できる生徒を育てる。 ・生徒自身が自己の進路目標について主体的に考え、その実現に向けて計画的に取り組むことができるよう援助する。	・基本的生活習慣を整え、規則正しい生活を維持させるだけではなく、常に礼儀と節度をわきまえ、場に応じた適切な行動をとることができるようにも指導する。 ・進路目標や学習状況に関しての情報を密に交換し、本校生徒の特性を考慮した進路指導と学習指導を行う。	・生徒は学習にも特別活動にも主体的・積極的・協力的に取り組むことができた。受験生である前に高校生であり、明和高校の生徒であるということを忘れず、日々の学校生活に真摯に取り組むことができた。 ・生徒は各自が設定した進路目標に向けてよく努力した。学年会や進路情報交換会等で情報を共有し、生徒に自己の進路目標について主体的に考え、行動させることができた。
いじめ防止基本方針に基づく取組	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の不安や悩みを把握するため、年2回の「いじめ・迷惑行為調査」の他、個人面談、健康観察等を実施する。	・「いじめ・迷惑行為調査」や個人面談の他、教育相談・特別支援教育委員会などで、生徒の悩み等の把握を迅速に行った。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況	在校時間が月80時間を超過している教員の割合を5%以下にする。	・職員室の開錠時間及び最終施錠時間を適切に設定し、合理的な働き方の工夫を推進する。 ・安全衛生委員会の定めた定時退校日を周知徹底し実施する。	・月80時間超の教員の割合は、約5%だった。 ・平常時は、20:00職員室施錠が定着してきている。 ・選抜業務が集中する時期に、定時退校日が設定されている。適切な設定が必要である。
総合評価		・新学習指導要領を視野に入れ、SSH事業を中心に据えた学校全体のカリキュラムマネジメントを推進し、新教育課程表を作成できた。 ・在校時間の平均値等から、多忙化解消の取組は一定の効果を上げていると考えられるが、今後も引き続き課題である。	

学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・次期学習指導要領を視野に入れながら、SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメントを推進し、教育課程を円滑に効果的に実施するために、職員間の連携や工夫ができたか。 ・業務改善の取組によって、多忙化解消を図ることができたか。
自己評価結果について	・SSHの成果に期待している。文理融合で育てていって欲しい。
今後の改善方策について	・新型コロナウイルス感染症対策 ・不登校への取り組み ・教職員の働き方改革への取り組み
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・コロナ禍においては、ピンチをチャンスに。 ・若者の自殺が増えていると聞く。メンタルヘルスのケアをして欲しい。 ・働き方改革は意識改革である。 ・是非OBを活用して欲しい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成……学校評議員4名及びPTA会長・副会長 ・評価時期……第1回：(11月11日実施)、第2回：新型コロナウイルス感染症拡大により書面実施